図書館関係団体ヒアリング　報告

１.概要

意見聴取団体	図書館事業に関わる図書館関係団体 14 団体
	【調査票による書面ヒアリング】11 団体（五十音順） 大阪声のグループ、おはなしたんけんたい、紙芝居クラブともだちや、 音点訳ボランティアグループ・エコー、さわる絵本かすみ草、しょうない REK、 千里ストーリーテリングの会、地域情報アーカイブ化事業実行委員会、豊中紙芝居の会、 豊中点訳会、野畑おはなしの会
	【対面でのヒアリング】3 団体（実施日順） 豊中図書館の未来を考える会、豊中子ども文庫連絡会、おはなしボランティアポケット
実施期間	令和 2 年（2020 年）7 月 1 日（水）～令和 2 年（2020 年）8 月 31 日（月） 【調査票による書面ヒアリング団体への事前説明】 7 月 9 日（木）　大阪声のグループ（説明） 7 月 16 日（木）　グループ・エコー（説明）、しょうない REK（説明） 7 月 21 日（火）　さわる絵本かすみ草（説明） 7 月 22 日（水）　豊中紙芝居の会（説明） 8 月 5 日（水）　野畑おはなしの会（説明） ※上記以外の団体へは、電話で説明の後、郵送等で調査票を送付 ※調査票の回収期限は、8 月 31 日（月） 【対面でのヒアリング】 7 月 29 日（水）豊中図書館の未来を考える会（ヒアリング） 7 月 30 日（木）おはなしボランティアポケット（説明） 8 月 4 日（火）豊中子ども文庫連絡会（ヒアリング） 8 月 26 日（水）おはなしボランティアポケット（ヒアリング）

２.調査票による書面ヒアリング団体への説明時の聞き取り内容（抜粋）

- 図書館は地域にとって知識や情報の拠点となるもの。学校教育以外の役割というのもある。
- 中央図書館は、増加する元気な高齢者にとっても楽しいものになってほしい。多様な人（様々な世代、外国人、障害のある人など）が集まって住む地域の中に図書館があるイメージ。
- 民間の力を借りる場合も、街が再生し、多様な人が暮らす街づくりができる打ち出しがあるとよい。市有地に民間の力で新しいものを持ってくるよりも、今の街のあり方を、今の街に住む人のニーズに沿った形で再生することが、多少お金はかかっても市民のためになるのではないか。
- 中央図書館ができるのは嬉しい。今の図書館には催しで使えるホールなどが無い。
- 子どもたちに魅力が伝わるような中央図書館であってほしい。図書館が楽しいところ、広がりがあるところ、というのを子どもたちが実感できるとよい。
- 図書館に相談に行けば必要なところにつながることができる図書館であってほしい。
- 豊中の図書館は地域館・分館体制で丁寧なサービスを展開してきた。サービスをよくするには人が大切。人とのつながりが無くならないようにしてほしい。
- （仮称）中央図書館基本構想を策定していることが伝わっていない。図書館関係団体以外にも周知が必要。
- 中央図書館体制では、専門書や資料を集約してレファレンスに対応するというメリットはある。

・　地域の人が歩いて行け、高齢者や障害のある人も利用できることが大切だ。駅前の利便性のよいところに遅くまで開いているアクセスポイントが 1 カ所ぐらいあるのはよいが、地域の中にある程度の資料があり本を選べる場所が必要。
・　実際の本を手に取り、本棚で本の背表紙を眺めることで、必要な情報に行き当たったり、ジャンルを超えた本に出合ったり、新たな発見につながることがよくある。図書館の必要性が伝わっていないことが課題だ。

３.調査票による書面ヒアリングの結果

11 団体に依頼し、7 団体から回答を得た

<table>
<tr><th colspan="2">１．活動について</th></tr>
<tr><th colspan="2">（1）活動内容</th></tr>
<tr><td colspan="2">・　地域の記録（写真）の収集・デジタル化と、キャプションを付けて Web 上で公開
・　講演会や写真パネル展の実施
・　さわる絵と点字と拡大文字の「さわる絵本」製作、さわってわかる教材などの製作
・　おはなし会、工作などと合わせたスペシャルおはなし会（夏休み、クリスマス、など）
・　学校や図書館でストーリーテリングや絵本のおはなし会
・　紙芝居の製作（豊中及び周辺地域の昔話）
・　紙芝居会、紙芝居の公演（図書館、学校、公民館、老人会、介護施設、デイケアサービス、子ども会、などで）
・　豊中市から依頼された選定本の点訳、広報誌の点訳や点訳カレンダーの作成
・　市立小中学校のボランティア体験授業の協力
・　勉強会</td></tr>
<tr><th colspan="2">（2）活動頻度</th></tr>
<tr><td colspan="2">週 2 回、月 3 回、月 2 回、月 1 回、その他（月 2 回の定例会及び自宅での製作）</td></tr>
<tr><th colspan="2">（3）活動場所</th></tr>
<tr><td colspan="2">図書館、小中学校、公民館、会議室、服部ビオパーク、障害福祉センターひまわりボランティア室</td></tr>
<tr><th colspan="2">（4）会合や打合せの方法</th></tr>
<tr><td colspan="2">・　メンバーや事務局担当が、それぞれ実施したいことなどを提案し、会合や打合せを行っている
・　図書館の集会室や資料を借りて、（公演やおはなし会の）事前に何度か打合せを実施している
・　製作道具、材料などを図書館に保管してもらっている
・　打合せが必要な時は、役員、会員への連絡をこまめに行っている
・　おはなし会の当日に早めに集合して打合せを実施している
・　あらかじめ部屋を予約（公民館は部屋代を払っている）して活動を実施している
・　年度初めに総会（4 月）を実施している
・　親睦会をかねた勉強会（年 2～3 回）を実施している
・　会員の連絡網（メールなど）で伝える</td></tr>
<tr><th colspan="2">（5）活動を続ける上で必要と考えること（もの）</th></tr>
<tr><td>場所</td><td>・　10 名程で作業可能なスペース、常時でなくてもよいので作業スペースがほしい
・　狭くてもよいので活動時にスキャンなどの作業ができる環境
・　資材の保管スペース
・　製作した資料の図書館での保存
・　練習、打合せ、製作の場</td></tr>
</table>

設備	・　写真やフィルムをデジタル化するための設備（パソコン、スキャナ） ・　点訳作業に必要な機材（パソコン、点字打ち出し機）
人	・若い力　　・新規会員　　・図書館司書のサポート　・会員同士の協力
資料	・　創作の助けとなる図書・資料の閲覧・貸出 ・　公演のための大型絵本、紙芝居の貸出
その他	・　製作した資料の利用拡大に向けた、図書館から学校や市民への広報 ・　子どもたちの読書好き、おはなし好きにつながる活動をしている団体には、例え図書館関係の団体でなくても広く支援をしてほしい ・　ボランティア活動を続けるための時間、モチベーション維持と向上心
（6）活動の中で困っていること	
場所	・　設備や作業場所の確保が難しい、活動の部屋の予約が難しい ・　公演する機会（場所）が少ない
人	・　より多様で充実した資料つくりのために、さまざまな技量やアイデアを持っている市民ボランティアの参加者がほしい ・　メンバーの高齢化と会員の減少
その他	・　大型絵本、紙芝居を運ぶ車が必要なので駐車場がほしい ・　各自、自宅での作業が多い ・　作業機器トラブル発生時の対応 ・　今年度はコロナ禍で集まる機会が制限されること
２.豊中市立図書館について	
（1）現状の図書館やサービスについて	
よい点	・　委託、指定管理制度をとらずに、職員の方々の人間性と個性で、サービスを提供していることはとてもよいことだと思う。施設の構造や蔵書量などを簡単に変更できないが、市民への日々のサービスをその場その場で作っていける体制にあることが、大きな可能性を持っていると思う。 ・　住まいの近くにある ・　開館時間が増えたこと。開館時間・日がいろいろあってもいい ・　貸出の自動化で便利になった。オンラインでの予約システムは便利 ・　活動を持続するための場の提供が無料であること ・　気配り、声かけ、提起と適切な助言がありがたい ・　たくさんの本にふれられる
課題	・　団体貸出でも、個人と同様にインターネットで予約できればよい ・　予約本がなかなかこない ・　貸出期間をもう少し長くしてほしい ・　点字図書館の充実、開放
その他	・　利用者にとって機械化は便利だが、職員まで機械的な対応にならないよう、温かい笑顔で市民や子どもたちに接していただきたい ・　課題は要望として挙がりやすいが、効率化やコンビニ的な利便性、パフォーマンスに流されないでほしいと思う
（2）今後コストを下げた運営が必要となる中、重点的に取り組むサービスについて	
資料	・　子ども向けの本や絵本の充実 ・　蔵書数の見直し

人	・　司書をしっかり置くこと、しっかりした司書がふえること ・　何をおいても人、人的配置。職員の方々が働きやすくやりがいのある職場であってほしい ・　市民が持っている能力や技術、時間をボランティアの講師として提供してもらう
サービス	・　子どもたちと本の出会いを大切に、積極的な働きかけを工夫してほしい ・　北欧のような子どもや外国籍の人の学びの ICT 支援など ・　資料提供、貸出の方法は技術の進歩に合わせて多様性を作っていくべき ・　インターネットサービスの充実
その他	・　コストがかかっても市民生活に必須の図書館、市民の知る権利を保障すること以外に重きを置くサービスはない ・　市民からの寄付
（3）活動を続ける上で必要なサポート	
場所	・　部屋の予約がもっとスムーズに、部屋数ももっとあれば… ・　気軽に手軽に公演できる場の提供 ・　場の提供は何よりのサポート（現在、無料で部屋が使用できる）
その他	・　機材を購入してほしいということではなく自由に使える許容の仕組みが欲しい ・　新刊本（絵本、大型絵本、紙芝居、など）の紹介 ・　大型絵本や紙芝居を公演の場所に運ぶサポート ・　製作物の納品がどこの図書館でもできたらよい ・　岡町図書館 4 階の点字図書室の明るさ、雰囲気の改善 ・　製作物の利用拡大 ・　案内サービスの充実 ・　現在の助力で十分
3.中央図書館を中心としたサービスへの移行について	
（1）中央図書館を中心としたサービス体制について、疑問や気がかりな点	
アクセス	・　中央図書館には資料の集積があり、これまでよりも、その場へ行ければ、満足な出会いがあると思うが、そこへのアクセスが至便でない市民にとっては、その恩恵を受けられない ・　遠くならないか心配　　・便利のよい立地、地域の小学生の行きよい場所
その他	・　地域館のサービス低下 ・　高齢者や子どもたちにも分かりやすいレイアウトになっているか ・　機械に慣れない者にも快く対応してもらえるか ・　情報過多の時代だからこそ図書（じっくりと読める、しっかりと調べられる、類似した分野が目に入る書架の広がり）を通じて知ることの大切さのサポートを、現在も接してくださっているように、心をつくすあたたかいフンイキでつないでいってほしい ・　豊中市の考える中央図書館の姿、めざしているのが何か分からない
（2）地域館・分館で必要な機能	
身近な図書館	・　遠出ができない市民、子どもや年配者が、本を読んだり雑誌を読んだりできる ・　中央まで行けない遠い地域では、地域館・分館はとても重要な役目を持っている
子どもへの支援	・　幼児、小低学年向けスペースと専用のトイレあり ・　子育てに関する支援

スペースや環境	・ 本がゆっくり読める、静かに本が読める環境、スペースの充実、静かな環境 ・ 障害のある方、高齢者、親子がゆったり過ごせる、すわりごこちのよい椅子や敷物の部屋 ・ 自習スペース（小高学年、中学、高校、大学生向け）
交流	・ 市民交流の勉強会などの催し ・ 本を中心に複数が集える、交流できる
地域性	・ 地域の学校に出かけたり地域の読書環境を高めるなど小回りがきく利点を生かせる ・ 各校区の情報交換
その他	・ 予約本の受取り ・ 本の相談をゆっくりとできる。この場合、例えば中央図書館の棚の本のタイトルを映像で見ることができたり、場合によっては、その本を見せてもらうなどのやり取りができるような対応
（3）中央図書館に期待すること	
地域資料	・ 地域の歴史資料を残す取り組みは、豊中の場合は図書館の役割だと思う ・ 歴史ある摂津の国、豊中市（大昔ゾウやワニがいた、古墳の残る町）の歴史を知る手立ての一つに、現在あちこちに小規模に展示、収納されている文化財を総合的に整理し、（仮称）郷土資料館、（仮称）古文書館、（仮称）博物館などの構想につなげ、中央図書館と同エリアにあることを希望
交流	・ 知的な文化的な空間で、市民全体の多様な交流や発信 ・ 暖かく血の通った人間どうしの交流の場
子どもへの支援	・ 子どもがわくわくするような読書スペースであること ・ 充実した閲覧スペースや自習スペース、子どもスペースの拡充
その他	・ 中央へ行けば「サポートがある」という体制、それを支える（職員に限らない）人材の長期的育成 ・ まとまった蔵書、資料の閲覧（開架式書庫なども含めて） ・ 展覧会や催しや市民による講座など ・ 図書館も含め市民が憩えるスペース、例えば喫茶ルームとか多目的スペースとかホールとか、一体となった建物を期待 ・ 利便性　・外観より内容の充実したもの ・ 学校図書館との連携　・点訳図書の周知
4.図書館に対する意見や希望	
・ 通常の資料を読むことや移動することに困難のある方が、情報入手を保障されているのかということは、まだまだと思います。子どもたちに焦点をあてても、近年、より認識が広がった学習障害の子どもたちへの読書支援なども、どうなっているのでしょうか。学校では教科学習で指導があるかもしれませんが、図書館でも読むことの支援を是非行ってほしいと思います。タブレット配布が行われる今、読書できる環境にもなってきますので、方法と資料の提供などが生きると思います。 ・ できれば公園なども併設し、遊びに来たついでに図書館へ、またその逆でも、若い子たちや子連れママたちには特に嬉しいと思う ・ 飲食スペースがあればいいと思う　・自習室があればよい　・駐車場もほしい ・ 動く図書館は続けてほしい　・市民の“知”の憩いの場として図書館があってほしい ・ 斬新な図書館が豊中にもほしい	

4.対面でのヒアリング記録

（1）豊中図書館の未来を考える会

日時	令和 2 年（2020 年）7 月 29 日（水）11 時 30 分～12 時 30 分
場所	豊中図書館の未来を考える会　打ち合わせ場所
参加者	豊中図書館の未来を考える会：4 人 図書館：須藤（岡町図書館長）、伯井（岡町図書館）

【(仮称）中央図書館基本構想について】

- 図書館は市の資源として、市民の文化を支えるという基本のところがアピールできていない。図書館が何をめざしているのかが伝わらない。ヒアリングでは「本がたくさんあってほしい」「専門職がいてほしい」といった意見が出るが、実現できるのか疑問が残る。
- 老朽化で修繕が必要になり、施設の維持管理にコストがかかることは理解できる。コロナ対応で予算も厳しくなるであろう中、建物と人件費を切るしかないことは予想がつくが、図書館協議会で地域館・分館が大切だということがはっきり出たことは重視してほしい。
- 図書館の機能が十分活かしきれていない。中央館になったらこういうこともできるというのがサービスを提供する側から出れば、もっと期待感も出てくると思う。どうあってほしいと聞かれると、座席がいっぱいあってゆったりしていて本がたくさんあって…となる。図書館から、中央館ができたら分館が減ったとしてもこうできるという打ち出しが必要。

【公共施設総合管理計画・事務事業見直しへの対応について】

- 中央に集約して職員のスキルを継承しサービスを維持向上するというが、職員が減った中でサービスを落とさずにやっていくことが可能なのか疑問がある。中央館が建つ時にこういう機能を持つので専門職の職員がこれだけ必要ということが言えないか。
- 図書館というのが市を繁栄させていく上でどういうものか、市民、議会、市長部局に明確に伝わっていないことが課題だ。図書館が何をめざしているのか、構想を出す時やアンケートに常に入れ、図書館から常に発信していかなければならない。図書館の役割を図書館からしっかり発信してほしいし、図書館の役割を理解した市政を行ってほしい。
- 市民一人当たり図書館費 2,000 円の目標設定について図書館協議会で説明を聞いた時に、2,500 円を 2,000 円に削減する根拠をきちんと検証した反対ができず通ってしまった。2,000 円というのは、分館 4 つ閉めるくらいしないと達成できない無理な目標だ。図書館協議会で出た「分館が大切」ということが守られないのではないかと危惧している。

【施設配置について】

- サービスポイントには利点があるが、札幌市の事例はサービスポイント以外の既存の図書館があった上での話で、サービスポイントだけが必要ということではない。
- 今の状況（コロナ禍）では行きたい気持ちはあっても図書館に行けない人が多くいる。服部図書館も工事で休館し、図書館に行けない子どもたちもいる。床面積が減ったとしても、子どもたちが身近に行ける図書館であってほしい。市全体で再編し、地域毎に必要なスペース（例えば子どもが集える場所や機能）の空白ができないようにする必要がある。

【サービスについて】

- 図書館の役割は本の貸し借りだけではない。図書館に行けない人、インターネットを利用できない

人へのサービスも忘れてはならない。

- はがき（郵送代は自己負担）でリクエスト票を提出できるような仕組みを考えてほしい。来館してリクエストをする時は未所蔵資料もリクエストできるが、インターネットからはできない。高齢者にとってはインターネットもハードルが高い。高齢になると行くのが困難な上、図書館まで行かないと予約できないことで、ますます利用から遠ざかる。電話やはがきで予約できるとよい。アンケートを見ると利用者の 40%以上を 60 歳以上が占めている。今後ますます増える。60 歳以上の人の個別の声を聞くのがよいのでは。
- 電子書籍の活用についてはどう考えているのか。同じタイトルでも電子書籍は紙の本より割高になるが、貸出は無料を想定しているのか。電子書籍の導入には益々お金がかかるのではないか。導入は慎重に検討すべき。

【レイアウトについて】

- 「静かに本を読む空間がほしい」「子どもと楽しむスペースがほしい」など多様な声がある。従来の図書館デザインに囚われず、塩尻市立図書館などの空間づくりを参考にしてほしい。いろんなところに少人数で集まれるスペースなどがあり、オープンな場所とオープン過ぎないスペースがうまくデザインされている。

【市民協働について】

- 地域の活動と図書館のありようをどう結び付けるかが大事だ。地域の活動と結びつくと、自分の図書館という意識が芽生える。瀬戸内市民図書館では、産業や市民活動と結びつく工夫があった。自分たちで展示する、自分たちから関わって変えていくことが今後大事になる。
- サービスを維持向上しつつ市民一人当たり図書館費 2,000 円の達成をめざす（それは無理があると考えるが）には、職員だけで全てやるのは無理で、市民力を活用することが大事になってくる。コロナ禍で自分でする、自分で作るという動きが出てきた。これからは、自分たちも図書館に関わるという動きが出てくるだろう。団体に所属するのではなく何かやってみたいという市民の声が出てくる。図書館が固定観念に囚われず受け入れる度量が必要だ。管理的な側面ではなく協働の視点をきちんと持つことが大切。
- 岡町図書館と千里図書館では、千里図書館の方が地理的要件的にも市民が関わっている部分が多い。岡町図書館は構造的に市民が関わることが難しい。

【その他】

- 登録率や貸出が減ってきているということだが、人が関わらないもの（自動貸出機など）が増えることで一時的には貸出が増えるであろうが、続けて増えていくとも思えない。

（2）豊中子ども文庫連絡会

日時	令和 2 年（2020 年）8 月 4 日（火）11 時 15 分～12 時
場所	岡町図書館　集会室 2
参加者	豊中子ども文庫連絡会 9 人：きずなの里文庫、Kei おばさんの本の部屋、つみ木文庫、おひさま岡町文庫、仲よし文庫、そよ風文庫、にじいろ文庫 図書館：須藤（岡町図書館長）、西口（庄内図書館長）、川上（千里図書館長）、伯井（岡町図書館）

【（仮称）中央図書館基本構想について】

- 豊中市では学校図書館に学校司書を配置し、子どもたちに本を届けることができている。登録率や貸出冊数だけでなく、豊中の市民活動や子どもと本をつなぐ人がいることもふまえて分析する必要がある。
- どんな中央図書館になるのか楽しみでもあり不安もある。おしゃれな図書館よりも中身の充実を優先してほしい。話題性で他県からの人が増えたのでは何をめざしているのか分からない。住民が「自分たちの地域の図書館」として愛着を持って使える図書館であってほしい。
- 市民が作る図書館という形もある。図書館に対する関心をどれだけの市民の間に醸成できるか。中央図書館を自分たちが作ろうという流れができればよいと思う。
- 今の 4 地域館体制に慣れて満足していたというのがある。図書館協議会でも議論したが、地域館・分館のための中央図書館、全体のサービスをあげるための中央図書館という点が大切だ。図書館を削るために中央館を作るのではないことを再確認しておきたい。
- 図書館ができるとしたら、箱物ではなく、温かみのあるものがよい。ちょっと遠くても魅力があり、子どもたちが行ってみようと思えるような図書館であってほしい。

【事務事業見直しへの対応について】

- 市民一人当たり図書館費 2,000 円について、コスト削減には人件費を削ることになる。結論から言うと人件費は削ってほしくない。立派な図書館を建ててカウンターは窓口委託という他市の事例が散見されるが、それだけは避けてほしい。ある程度人を減らさなくてはならないとしても直営は守ってほしい。
- ブックスタート事業「えほんはじめまして」や文庫で取り組んできた「親子で本を通じてよい時間を過ごす」というコンセプトが、機械化や人件費削減で失われてしまうことを避けたい。リモートや機械化では伝わらない体温のようなものがある。せっかく培ってきた人と人のつながりを大切にしてほしい。
- コロナ禍による財政のひっ迫が予想される。コロナ後にサービスを復活できないまでに削減することのないよう持ちこたえてほしい。リモート対応など図書館が臨機応変に変わっていくことは必要だが、大事なところは守ってほしい。図書館にとって一番大切なのは人と本。
- 今は人と接しない方がよいとされるが、人間は生きていく上で人と接触しないでは生きられない。人間が生きていく上で必要なものまで削ってはならない。

【施設配置について】

- 校区外の中央図書館へは子どもは一人では行けない。親に連れてもらうには休みの日に限定されてしまう。中央に集約されると利便性は下がる。
- 身近なところのサービスポイントという考え方はよい。高齢者や小学生は身近なところしか行くことができない。
- 子どもたちが自分の足で行けるところで、ある程度の調べ物ができるとよい。子どもが自分で解決できるだけの力（資料や人のサポート）を地域館も持っていてほしい。そのためには直営と専門職が必要だと思う。
- 子どもたちから本を選ぶ楽しみを無くさないでほしい。サービスポイントでも予約の受取りだけでなく本が選べるとよい。
- 分館の充実があってこその中央図書館。サービスポイントとして軽く扱うのではなく、一つ一つ大事に位置付ける体制が必要だ。
- 豊中駅の近くに図書館がほしいという声を聞く。
- 働く世代には夜の利用もニーズがある。特定の日だけでも夜開けてほしいという声も聞く。

【人材について】

- 人間には機械にできないことをしてほしい。司書の専門性も機械ではできないことの一つと思う。司書の持っている能力も考慮し、人の配置も考えた中央図書館構想を望む。司書と話して資料を選びたい、相談したいという人がいる。相談できる図書館がよい。
- 感染症対策のため現在は滞在が制限されている。将来的に利用が戻ってきた時に、より丁寧な声かけなど、体温の感じられるサービスが必要。人にしかできないことがある。

【市民協働について】

- 豊中の図書館で今まで培ってきた市民活動は地域との結びつきが大きい。長年取り組んできた地域とのネットワーク作り、横のつながり・広がりが、断ち切られてしまうことのないようにしてほしい。

【図書館の役割や機能について】

- 今のように団体をサポートしてくれる機能があるとよい。
- 新型コロナウィルス感染拡大防止のため図書館が休館となり大阪府から 2,000 円の図書券が配られたが、利倉西地域の子どもたちは近くに書店も無く、県を跨がないと本を買いに行けず、府県を超えた移動も抑制された中、子どもたちは本を手にすることができなかった。あの期間に普段図書館を利用しない人から「図書館は閉まってるの？」という声をよく聞いた。普段は仕事で利用できない人も、あの時は仕事が休みになったり家にいる時間があり、図書館を利用してみようと思った。こういう時期こそ本は必要なんだと感じた。できる限り開館を続けてほしい。いざとなったら図書館へと思っている人はいる。

【ICT の活用】

- 人と人とのつながりがあり、温もりがあって、何でも聞きやすいようにしてほしい。機械ばかりでは高齢の世代の人には行きにくく使いにくい。
- 中高生ぐらいの年代は、借りる本が人に見られずに手続きできる機械がよいという声も聞く。ニーズにあわせた対応が必要だ。

(3) おはなしボランティアポケット

日時	令和 2 年（2020 年）8 月 26 日（水）13 時～14 時
場所	岡町図書館　集会室 3
参加者	おはなしボランティアポケット：7 人 図書館：虎杖（野畑図書館長）、永島（岡町図書館副館長）、伯井（岡町図書館）

【(仮称）中央図書館基本構想について】

- 中央に集約しても本が届くようにするには、動く図書館のステーションを大幅に増やすなど、より細やかな対応が必要だ。集約するのであれば、今以上のサービスができるような力を持った構想でなくてはならない。
- 箕面市は大学と連携した図書館を計画中で、図書館を縮小する方向とは見えない。
- ブックスタート事業に携わる中で、今でも図書館が近くに無いという話をよく聞く。
- 図書館は身近であることが一番大事だ。親子が身近に利用できることの大切さを実感している。子どもが一人で歩いていけることがベスト。
- 中央図書館を建てることに資金や人材を注力しすぎるのではなく、分散させる考え方も持ちながら

構想を作ってほしい。

【施設の再配置について】

- 施設を縮小するのであれば、今利用している人の声を聞き、代替策や補う方法が必要。
- 野畑図書館は「地元に、身近なところに図書館を」という地域の声を受けて開館した。身近なところに図書館をという精神を大切にしてほしい。野畑図書館の近隣の地域には、地域の人が集える施設がないので無くさないでほしい。

【地域館・分館について】

- 例会は岡町図書館でしているが、分館でも集会室を利用し、選書をし、相談もしている。地域館・分館でも資料相談やレファレンスに的確に対応してもらいたい。
- 分館では、落語会など様々な行事がきっかけで図書館を利用する人もいる。そういった場が地域にあるのがよい。地域の中に図書館が必要だ。立派な中央図書館は気後れしてしまうが、身近な図書館にはとっつきやすさがある。地域性のある図書館が望ましい。
- 選書で様々な図書館を利用するが、各館毎に少しずつ特徴がある。同じ本も目につく館つかない館があり、それぞれの館で本との出会いがある。館毎の特徴も大切にしてほしい。
- 日常の交通手段は徒歩のみという人もいる。高齢者は遠くに大きな図書館ができるよりも身近なところにほしいと思う。実物の本を手に取って選べるよう希望する。

【中央図書館の立地について、複合施設について】

- 駅近が利用しやすい。複合施設にして巡回バスを無料で走らせるなど、行きたくても行けない人を作らないために、交通の手立ても考える必要がある。
- 池田市は駅前に図書館が移転した。駅前で返却や予約本の受取りができるのは利便性が高い。
- （不便な場所でなければ）緑の公園の中の図書館というのも雰囲気はよいと思う。災害時には避難所としてのメリットもある。
- 保健所と同じ建物というのもメリットがある。

【図書館の役割や機能について】

- 図書館には「くつろげる場」という機能もある。分館が縮小され「くつろげる場」が減ってしまうことは残念。
- 図書館は文化だと思う。豊中市は教育文化都市として芸術や音楽に力を入れるのであれば、図書館にも力を入れてほしい。
- 新型コロナウィルス感染拡大防止のために図書館が休館していた時に、入口で小さな子どもが「図書館入れないの？閉まってるの？」と何度もお母さんに聞いていた姿に切なくなった。図書館に行ってくつろぐことを求めている人もいる。図書館は身近に開いていてほしい。

【人材について】

- 様々な人々が利用しやすい図書館であるためには人が必要。機械化で効率ばかり追求しないでほしい。
- 大阪市に「子ども本の森　中之島」が開館した。いくら立派な建物であっても手渡す人がいなければ入れ物になってしまう。
- 以前はボランティアと職員が共に勉強する機会や場があり、お互いの研鑽になっていた。

【デジタルデバイドへの対応】

- 年齢が上がれば上がるほどインターネットで予約するのも難しい。ホームページが見れず広報が頼

りという人もいる。そういった人を置き去りにしないようにお願いしたい。

【ボランティア活動について】

- 身近に図書館があり、地域館・分館どこでも対応してもらえるのが非常にありがたい。相談にすぐに応えてもらえて心強い。図書館があるから活動が継続できる。図書館が無ければ活動が成り立たない。図書館が遠くなり不便になってしまうと活動できなくなる人もいる。
- 活動を続ける上で場所は必要だ。今と同じように集会室を借りて打合せができるように希望する。打合せをしないで子どもたちの前に立たない、選書をきっちりするということで読み聞かせの活動している。打合せがおろそかになったら子どもたちに敏感に伝わる。おはなしポケットでは 31 校の小学校の子どもたちにおはなしを届けている。その裏には、打合せ、選書、練習という積み重ねがあり、それによりおはなし会の質も維持していける。資料があって、声を出して打合せや練習ができる（一般の利用者とは区切られた）場所は必要だ。